

編集後記

4年前から藍野学院紀要の編集委員長になり、紀要の充実には力を入れてきた。その結果、本学院の紀要は、年々歳々よくなってきている。まず、毎年の投稿論文の数は10編余りであったが、今年は16編と約5割増しになってきた。16編のうち、英文が8編になり、それも今年は看護職の英語の論文がほとんどである。一つの大学の看護教員がこれだけ多くの英文論文を発表したことは珍しく、看護教員の意識もずいぶん変わってきたと思う。特に本誌の英文論文以外にも、英文論文1編が、英国の国際看護雑誌 British Journal of Midwifery に掲載されることになったことは、喜ばしいことである。

特記したいことは専攻科の学生が二つの英文の論文を発表していることである。専攻科の学生にとっては、一年間という限られた時間内に、講義や実習、実習レポートの作成の他に、英語の論文を仕上げることは並大抵のことではなかったと思うが、十分我々の期待に応えてくれた。高等教育機関での教育の成果が目に見えるかたちで現れてきたのは、大変うれしいことである。

それにつけても、紀要の編集顧問で、かつ元国際雑誌の編集委員長であられた増田芳雄客員教授の指導は並々ならぬものがあつた。投稿論文が学術論文として批判に耐えられるようにする為、それぞれの論文について毎年10回ぐらい訂正を命じて指導を行い、その後英文として発表するように指導して頂いた。特に英文論文の指導については、ネイティブスピーカーで、その道の権威である野口ジュディさんには一方ならぬご指導をお願いし、完全な英文論文を発表することができた。併せて感謝申し上げる。

査読に関しても、毎年複数の査読者に、ことに多くの名誉教授などの先生方に、多大の有益なご意見を頂き、立派な論文にするよう協力して頂いたことに感謝している。

最後に論文の表現の問題から、句読点に至るまで細部に亘って並々ならぬご指導を頂いた、野村公寿副学長に心から感謝申し上げたい。

来年は、さらに論文の内容を含めて世間の批判に十分に耐えられるような、より良い紀要を作りたいと考えている。多くの優れた論文の投稿を期待して止まない。

(編集委員長：堺 俊明)

藍野学院紀要 第15巻

平成14年3月15日

編集兼発行者 学校法人 藍野学院
〒567-0012
大阪府茨木市東太田4-5-4
電話 (0726) 27-1711 (代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒601-8316
京都市南区吉祥院池ノ内町10
電話 (075) 681-2741